

# 一日ひとつ 違うことをした気になる



タイでのデルタ株の蔓延は人口比で言えば日本のピーク時の約2倍の新規感染者が毎日出ていた状態で、それが日本よりずっと長く続いていました。最近になってようやく減少してきたかな、このまま減少してほしい、というところです。

ワクチンは一回目だけ接種できました。タイに住民票などない私がどうやってワクチンを打てるのだろうかと心配でしたが、任意で加入している民間の医療保険から接種の案内がきました。ワクチンの種類はシノバックかアストラゼネカのどちらかでそれは選べない、と書かれていたことに軽く衝撃を受けましたが、それでも申し込みました。

当日、接種会場に着くと、受付、血圧測定、同意書にサインと、どんどん促されてあつという間に接種ブースに。座った途端に向かってくる注射針。「ちょっと待って、それはどちらの？」質問できたのは接種一秒

事ばかり作っている気がするし、これまでになにかの合宿だけかと思えてくるのです。

そんな私と子供たちの夏休みの日課はムービーナイト。これまでも週末などに家で映画を見ることがあります。夏休みは一日も欠かさずに映画を観ました。夕方から順番に入浴を済ませ、夜七時頃までに夕飯も食べ終え、テレビの前のソファに並びます。各自タオルケットや飲み物や、映画を観ながら食べるためにとっておいたおやつなどを持参。部屋は映画館風に暗くします。ちなみに夫は職種柄、在宅勤務できずに毎日出社。映画が佳境に入る頃にたいてい帰ってきて、うす暗い部屋の中で夕食を食べていました。

映画は主にNETFLIXで観ていましたが、二ヶ月間毎日観続けるとさすがに観たい映画が見つからなくなってきた、レンタルも利用しました。連続ドラマを観たこともあります。

**文・写真  
小宮華寿子**  
二男一女の母で  
編集者。「プラ」と  
ジルの手しごと  
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と  
ワークショップの店「マルカジニョ」  
(<https://mercadinho.net>)代表。

**イラスト・  
デザイン  
寺沼麻美**  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆ  
らゆらゆれる北欧風手作りモビ  
ール」(ネコ・パブリッシング)を監修。

ですが、もう一話、もう一話と、夜更かししたり、寝しなに次はどうなるのかと、もやもやしてしまいます。その点、映画だと約2時間で完結。読了感ならぬ観了感を味わいつつ、各自ペッドに散っていきます。

振り返ればこれが案外と精神安定上、役に立っていたようです。一日一つ違うことをした気になれました。生活のリズムを保つことができました。これを子供たちが各自バラバラに観ていたら、ちょっと違った気がします。特異な状況下、同じ空間の中で二十四時間過ごす私と子供三人が揃って観ていたことで、共有体験にもなった気がします。

タイでのアストラゼネカの接種間隔はおよそ十二週間なので、七月に一回目を接種しましたが、まだ二回目は接種できません。この接種間隔もタイでワクチン接種が加速しない一因かもしれませんね。

ロックダウン下の夏休み

子供たちの夏休みは7・8月末にタイに引っ越して以来、一度も学校に行けずにオンライン授業を受けていて、毎日長時間パソコンに向かう生活には子供たちも辟易。それから一時解放されても、ロックダウン下の夏休みは、遊びに行けるわけでもなく、外食さえできません。

家から出ないものだから、自分がどこにいるのかおかしな錯覚に襲われる時があります。三人の子供の中には私の背をとうに越した高校生男子が含まれていて暑苦しいし、食

前。アストラゼネカでした。

タイでのアストラゼネカの接種間隔はおよそ十二週間なので、七月に一回目を接種しましたが、まだ二回目は接種できません。この接種間隔もタイでワクチン接種が加速しない一因かもしれませんね。